

問1 北海道の酪農において、近年の統計で見られる「飼育戸数が減少しているにもかかわらず、全体の生乳生産量が増加している」という現象の背景にある、生産体制の工夫を説明する用語の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）

1. 経営規模の拡大と機械化 2. 地産地消と手作業の重視 3. 減反政策と多角経営 4. 施設園芸農業と有機栽培

問2 北海道の産業別就業者数に関する特徴として、最も適切な記述はどれか。（2025年 青森県公立入試 類似）

1. 広大な土地で農業が行われているため、第1次産業の割合が全国平均に比べて高い。 2. 大規模な工業団地が多く、第2次産業の割合が全産業の中で最も高い。 3. 大消費地である東京に近いため、近郊農業による第1次産業の割合が全国で最も高い。 4. 第1次産業から第3次産業まで、それぞれの就業者割合がほぼ均等になっている。

問3 北海道の農業産出額の構成において、畜産の占める割合が5割を超え、米の割合を大きく上回っている理由として最も適切な説明はどれですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）

1. 広大な土地を活かして、乳牛などの大規模な飼育が行われているため 2. 冷涼な気候を活かして、米の生産に特化した大規模農業が行われているため 3. 大消費地に近い利点を活かして、野菜の生産を最も重視しているため 4. 平地が少ないため、傾斜地を利用した果樹栽培が盛んに行われているため

問4 北海道の製造品出荷額等の内訳について、全国平均では約11.6パーセントにとどまる一方で、北海道では全体の約33.1パーセントと3割以上を占め、最も大きな割合となっている工業部門は何ですか。（2018年 三重公立入試 類似）

1. 食料品工業 2. 機械工業 3. 化学工業 4. 金属工業

問5 明治時代に行われた北海道の開拓の背景と特徴について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

1. 政府は開拓使を設置し、屯田兵による北方の防衛と大規模な土地改良を並行して進めた。 2. 九州地方の沿岸警備を目的として配置された防人が、大規模な志願制度によって北海道へ移された。 3. 広大な森林を維持するため、農業は一切行わずに毛皮の採取と輸出のみを推奨した。 4. アイヌの人々の独自の文化や土地利用の権利を保護することを最優先に開発が進められた。

問6 人口約526万人を抱える北海道では、道庁所在地の人口が約197万人に達するなど都市部への人口集中が見られる一方で、広大な土地や気候特性を活かした新たな産業の立地が進んでいます。近年、北海道において企業の膨大な情報を管理するデータセンターの集積が進んでいる理由として、自然環境の面から説明したものと最も適切なものを選びなさい。（2021年 東京都公立入試 類似）

1. 年間を通じて気温が低くサーバーの冷却コストを抑えられる点や、地震等の影響を受けにくい安定した地盤があるため 2. 梅雨の影響を受けず夏が乾燥しており、広大な丘陵地帯を太陽光発電の適地として活用しやすいため 3. 周辺を流れる対馬海流の影響で冬も温暖であり、精密機器の故障の原因となる結露を防ぐのに適しているため 4. シラスと呼ばれる厚い火山灰層に覆われた台地が広がっており、大規模な施設の建設に必要な強固な土台が得やすいため

問7 北海道の農業産出額の構成を示したデータでは、乳用牛や肉用牛といった「畜産」が51.7%を占め、全国平均の31.4%を大きく上回っています。北海道において、このように畜産が盛んになった背景や理由として最も適切な説明はどれですか。（2017年 埼玉県公立入試 類似）

1. 広大な土地と冷涼な気候を活かし、大規模な牧草地を確保して酪農などを行うのに適していたため。 2. 夏の高湿多湿な気候を活かし、広大な土地で年に二度、米を収穫する二期作が行われたため。 3. 山がちで複雑な地形を活かし、小規模な土地で果樹栽培と畜産を組み合わせた多角経営を推進したため。 4. 大消費地である東京周辺への輸送距離が非常に短く、新鮮な食肉や牛乳を即座に届けられる有利な立地であったため。

問8 北海道の石狩平野で見られる「泥炭地」の土地改良について、その目的と仕組みを説明したものと最も適切なものはどれですか。（2022年 三重公立入試 類似）

1. 水分が多く植物の遺骸が堆積した土地に、別の場所から土を運び入れることで、排水性を高め稲作に適した農地にするため。 2. 火山灰が降り積もった水持ちの悪い土地に、粘土質の土を混ぜ合わせることで、水田に必要な水を蓄えられるようにするため。 3. 砂丘が広がる乾燥した土地に、スプリンクラーなどの灌漑設備を整え、らっきょうやスイカなどの栽培を可能にするため。 4. 山がちな地形で平地が少ないため、斜面を階段状に切り開いて石垣で固定し、日当たりの良さを活かしてみかんを栽培するため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 経営規模の拡大と機械化	酪農家1戸あたりの飼育頭数を増やして効率を上げる「経営規模の拡大」と、搾乳ロボットなどの導入による「機械化」が組み合わさることで、労働負担を軽減しながら高い生産性を確保しています。統計上でも、100頭以上の大規模な飼育戸数の増加や、搾乳ロボットの普及率の劇的な上昇にその傾向が表れています。
問2	答え 1 広大な土地で農業が行われているため、第1次産業の割合が全国平均に比べて高い。	北海道は、十勝平野での畑作や根釧台地での酪農など、広大な土地を生かした農業が基幹産業の一つとなっており、第1次産業の就業者割合が約6%と全国平均よりも高い水準にある。一方で、就業者数の構成比としては、サービス業などの第3次産業が約76%と大半を占めており、第2次産業が中心というわけではない。
問3	答え 1 広大な土地を活かして、乳牛などの大規模な飼育が行われているため	北海道の農業は、1戸あたりの耕地面積が非常に広く、機械化された大規模な経営が特徴です。特に、稲作が困難な地域も含め、広大な草地を利用した酪農（乳牛の飼育）が全域で盛んに行われているため、産出額に占める畜産の割合が突出して高くなります。「米の割合が高い」あるいは「野菜の割合が高い」といった他の地域の構成とは、土地利用の規模の面で大きく異なります。
問4	答え 1 食料品工業	北海道は、広大な農地を活かした大規模な農業や、豊かな漁場を背景とした漁業が非常に盛んです。これらの豊富な農水産資源を加工し、乳製品や水産加工品、砂糖などを製造する工業が発展しているため、工業生産全体に占める割合が全国平均と比べて極めて高いことが特徴です。
問5	答え 1 政府は開拓使を設置し、屯田兵による北方の防衛と大規模な土地改良を並行して進めた。	明治政府は、ロシアに対する防衛（国境の確定）と、資源の確保や失業した士族の救済を目的に北海道の開拓を急ぎました。開拓使が中心となって欧米の農業技術を導入し、屯田兵が厳しい自然環境の中で土地を切り拓いたことが、現在の北海道の農地基盤につながっています。
問6	答え 1 年間を通じて気温が低くサーバーの冷却コストを抑えられる点や、地震等の影響を受けにくい安定した地盤があるため	データセンターは、稼働する大量のコンピューターが発する熱を効率よく冷却する必要があります。北海道の寒冷な気候を利用すれば外気による冷却が可能のため、電気代などの維持費を削減できる利点があります。また、データの損失を防ぐために自然災害のリスクが低い場所が選ばれる傾向にあり、北海道の安定した地盤も立地の決め手となっています。なお、シラス台地は九州南部の特徴であり、北海道の土壌とは異なります。
問7	答え 1 広大な土地と冷涼な気候を活かし、大規模な牧草地を確保して酪農などを行うのに適していたため。	北海道、特に根釧台地などの地域は、夏でも気温が上がりやすく霧が発生しやすい冷涼な気候であるため、伝統的な稲作には向きませんでした。一方で、その広大な土地を牧草地として活用することで、牛を飼育する酪農や肉用牛の生産といった「畜産」が発展しました。このように、地形や気候といった自然環境に合わせて、最も効率的な農業形態を選択した結果、大規模な畜産経営が確立されました。
問8	答え 1 水分が多く植物の遺骸が堆積した土地に、別の場所から土を運び入れることで、排水性を高め稲作に適した農地にするため。	泥炭地は寒冷な気候の影響で植物が腐りきらずに堆積した土地で、スポンジのように水分を大量に含んでいます。このため、農業を行うには「客土」によって土壌を入れ替え、さらに排水路を整備して余分な水分を取り除く必要がありました。他の選択肢にある「火山灰地」は関東地方や九州地方、「砂丘」は鳥取県などの山陰地方、「段々畑でのみかん栽培」は愛媛県や和歌山県などの気候と地形を活かした取り組みです。